

私は大阪医療センター皮膚科専修医で、平成 26 年 1 月からの 2 カ月間、米ロサンゼルスにある Veteran Affairs (VA) 病院とカリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) の皮膚科での研修に参加しました。現地では主に外来患者の診察を体験し、手術も見学しました。短い期間でしたが、アメリカの医療制度から見えてきた日本の素晴らしい点や、今後日本が避けては通れない医療の現実も考える機会となりました。

VA 病院の皮膚科は部長をはじめアテンディング (指導医)、レジデント (専修医)、医学生など約 20 名で、全員が UCLA の医局員を兼ねています。加えて定期的に他の病院での勤務もあり、多忙な生活を送っていました。

主に診療するのはレジデントで、必要に応じてアテンディングがサポートしてくれますが、多くはレジデントの判断で手術も診療も進められていました。どの医師も非常に勉強熱心で、珍しい症例では互いに声を掛け合い、自分の仕事を中断して診察に参加する光景が頻繁に見られました。

日本とは異なり、診療予約などの雑務は全て事務が担当するため、医師は診察に集中できる体制になっています。一方で、日本とは異なり患者との関係は非常にドライだと感じました。患者が医師に大きな信頼感を抱くケースは日本では依然多く見られます。しかし、アメリカでは医師を疑う姿勢が強く、治療方針について納得がいくまで時間をかけて医師に質問するなど、強い自己責任を感じました。医療費が高額なため、患者が必要だと思う治療のみ行う傾向があることが理由に挙げられると思います。

VA 病院は退役した軍人の病院で、費用は全額政府が負担するため医療費の心配はありません。私は偶然、一般の病院に行く機会があり、アメリカの医療費の問題を目の当たりにしました。患者がどの治療を受けられるかは、加入している保険がかなり影響します。保険によってカバーされる範囲内での治療が原則で、患者に選択の余地がない場合も少なくありません。けれどもアメリカ人はその現実を素直に受け入れているように感じました。政府に何とかしてほしい…と主張する人は私の周りにほとんどいませんでした。

ふと振り返ってみると、日本では保険診療の範囲内で基本的に治療法を選ぶことができます。これまでこの点のごく当たり前に感じ、時には最新の薬が保険適用でないことにもどかしさを覚えることもありました。しかし、世界に誇れる日本の素晴らしい制度なのだと気づかされる経験でした。

残念ながら日本は少子高齢化の影響で、医療費が膨らむ一途をたどっています。このままでは日本の誇れる制度も維持できなくなる恐れがあります。ある程度、医療の効率化とスリム化の必要性が出てくるのだらうと感じました。その点、アメリカはどこまでも効率化されており、学べるところもあると思いました。例えば入院日数です。日本で皮膚がんの手術を行う場合、手術の前日から 1 週間程度入院するケースが多いようですが、アメリカで私が経験した皮膚がんの手術はすべて外来診療の範囲でした。他にも日本で術後の抗生剤の予防投与は一般的ですが、アメリカではほとんど行われていないなど、日米間で大きく違う点も見受けられました。アメリカのように極端な医療の効率化は日本にそぐわな

と思いますが、医療費の削減などを考えると、必要な治療を厳選することが、今後日本でも求められるのかもしれませんが。

このプログラムに参加するにあたり、二重音声のあるNHKのニュース番組を英語で毎日観ることを習慣にしました。日本にいるときから毎日英語に慣れ親しんでいくことが、なによりも大切だったと感じました。2カ月間の研修はあっという間で、現地での生活に早く馴染むことで、研修の充実度は大きく変わります。英語のニュース番組を毎日見続けたことが私の場合、とても役に立ったと感じています。

ただ、1点やっておいた方が良かったと後悔していることがあります。それは医学専門用語の発音です。論文を読んでいると英語の医療用語は身につきますが、肝心なのはその用語を伝えられるということです。私の場合、アクセントが間違っていたのか伝わらなかったことがあり、大変苦勞しました。文字に書いて伝えることはできましたが、行く前に勉強しておけばもっとスムーズに会話ができたとと思います。

最後になりましたが、VA病院皮膚科部長の **Dr. Shellow** をはじめ、UCLA 皮膚科准教授の **Dr. Levins**、**Dr. Kaunitz**、秋庭先生、コーディネーターの奥津弘子さんには慣れないアメリカ生活において大変お世話になりました。楽しく、有意義な体験をさせていただき感謝しております。また2カ月間、担当する外来や手術に穴あけたにも関わらず、留学に快く送り出してくださった大阪医療センターの田所皮膚科部長をはじめ、スタッフの方々のご理解とご協力にも感謝いたします。

